(83)

十月二十六日米案ニ対スル意見、対米通牒案（十一月廿日）

S 1.1.3.1 -1 1559 148

REEL No. A-0293

0090

アジア歴史資料センター

(一)合衆國政府ハ世界平和ノ爲ナリト稱シテ自國ノ繁榮乃至現狀維持ノ爲獨リ自己ニ好都合ナル諸原則ヲ主張シ之カ採擇ヲ帝國政府ニ迫レル處世界(平和)安定ハ各國ノ現實ノ事態ヲ認識シ且相互ノ立場ニ理解ヲ示シツツ相互ニ受諾シ得ヘキ方途ヲ發見シ誠實ニ之ヲ適用スルコトニ依リテノミ具現シ得ルモノニシテ

現實ヲ無視シ一國ノ身勝手ナル意見ヲ相手國ニ强要スルカ如キ態度ハ平和ヲ攪亂シ福祉ノ增進ヲ阻害スルモノナリ

今般合衆國政府カ日米協定ノ基礎トシテ提議セル第一部「政策ノ相互宣言案」ニ列擧セラレタル政治的根本原則ニ付テハ第一乃至第三原則ニ對スル帝國政府ノ見解ハ既ニ合衆國政府

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

ニ表明シ居リ又經濟關係ニ關スル第一原則ニ付テハ帝國政府ハ同原則カ全世界ニ一律ニ適用アルコトヲ希望スルモ世界ノ他ノ部分ニ於テ同原則カ行ハレサルニ太平洋地域就中支那ニ於テノミ本原則カ行ハルルコトヲ承認スル能ハス支那ニ於ケル同原則ノ適用ハ世界ニ於ケル適用ニ順應シテ行ハントスル

モノナルコトハ米國政府ニ對シ明瞭ニ爲シ置キタル通ナリ其他ノ諸原則ハ新タニ提案アリタルモノナルカ此等諸原則全部ヲ一括シ帝國政府ノ見解ヲ開陳スルニ右ハ何レモ世界平和成立ノ曉ニ於ケル究極ノ安定情態ヲ要約セル一見解ヲ示シタルモノニシテ必スシモ現狀ニ於テ執ルヘキ具體的政策乃至措置

REEL No. A-0293
0092
アジア歴史資料センター

ノ基準トスヘキモノニアラス然ルニ合衆國政府ハ先ツ此等諸原則ノ承認ヲ求メ之ニ基キ漸進的ニ現實ノ具體政策ヲ劃約セントスル意嚮ヲ有スルコトハ第二部「日米政府ノトルヘキ措置」ノ諸提案ニ照ラシ明カナリ此ノ見地ヨリ日本國政府ハ現實ノ事態ニ即セスシテ此等諸原則ヲ適用スルコトニ同意スル

ヲ得サル次第ナリ

尚亦日、米、英、支、蘇、和蘭、泰七國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ案（「日米兩國ノ採ルヘキ措置」第一項）ノ如キモ徒ニ集團的平和機構ノ理想ヲ追フノ結果東亞ノ實情ト遊離セルモノニシテ偶々右七國カ東亞ニ領土ヲ有スルノ故ノミヲ

REEL No. A-0293
0093
アジア歴史資料センター

以テ漫然之ヲ糾合シテ斯カル機構ヲ設ケントスルハ國際聯盟ノ失敗ヲ繰返スコトトナラサルヲ保セス帝國ノ俄ニ賛同シ難キ所ナリ

(二)合衆國政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ眩惑セラレ自ラ戰爭擴大ヲ企圖シツツアリト謂ハサルヲ得ス即一方太平洋地域ノ

安定ヲ計リテ自國ノ背後ヲ安固トシツツ他方英帝國ヲ援ケ歐洲新秩序建設ニ邁進スル獨伊兩國ニ對シ自衛權ノ名ノ下ニ進ンテ攻擊ヲ加ヘントスルハ太平洋地域ニ平和的手段ニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張ト全然矛盾背馳スルモノナリ

REEL No. A-0293
0094
アジア歴史資料センター

而シテ
然ルニ合衆國政府今次ノ提案第二部「日米政府ノ採ルヘキ措置」第九項ハ米國カ歐洲戰爭參入ノ場合ニ於ケル帝國ノ三國條約上ノ義務履行ヲ牽制セントスル意圖ヲ以テ提案セルモノト認メラルルヲ以テ右ハ我方ノ斷シテ受諾シ得サル所ナリ

(三)合衆國政府ハ其ノ堅持スル主張ニ於テ武力ニ依ル國際關係處理ヲ排擊シツツ一方經濟力ニ依ル壓迫カ場合ニ依リテハ武力壓迫ノ苦痛タルコトヲ全然忘却セルモノト斷セサルヲ得ス

(斯ル場合ニハ過度ノ壓迫ヲ蒙リタル國民ハ時トシテ自存ノ爲ニ猛然反撥スルコトアル點ニ深ク留意スルヲ要ス)

(四)合衆國政府ノ意圖ハ英帝國其ノ他ノ諸國ヲ誘引シ支那佛印ノ

REEL No. A-0293
0095
アジア歴史資料センター

ミナラス其他東亞ノ諸地域ニ對シ其從來保持セル支配的地位ヲ永ク維持セントスルモノト見ルノ外無キ處東亞諸國カ過去百有餘年ニ亘リ英米ノ帝國主義的下搾取政策ノ下ニ現狀維持ヲ強ヒラレ兩國繁榮ノ犧牲タルニ甘ンセサルヲ得サリシ歴史的事實ニ鑑ミ右ハ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメントスル

帝國ノ根本國策ト全然背馳スルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ容認スル能ハサル所ナリ

合衆國政府今次提案中佛印ニ關スル現規定（「日米政府ノ採ルヘキ措置」第二項）ハ正ニ右態度ノ適例ト稱スヘク佛領印度支那ニ對シ佛國ヲ除キ日、米、英、蘭、支、泰六國間ニ同地

REEL No. A-0293
0096
アジア歴史資料センター

蘭ノ領土主權ノ尊重竝ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ六國政府ノ共同保障ノ下ニ置ク即チハ英米ノ支配下ニ一ヲ立タシメントスルニ等シク佛國ノ立場ヲ全然無視セル點ハ暫ク措クモ東亞ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原因ノ一タル九國條約類似ノ體制ヲ新ニ佛領印度支那ニ擴張セン

トスルモノト觀ルヘキモノニシテ帝國政府トシテ絶對ニ容認シ得サル所ナリ

REEL No. A-0293
0097
アジア歴史資料センター

(五)合衆國政府カ支那問題ニ關シ帝國ニ要望セル所ハ或ハ全面撤兵ノ要求ト云ヒ或ハ通商無差別原則ノ無條件適用ト云ヒ何レモ支那ノ現實ヲ無視シ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ地位ヲ蔑滅セントスルモノニシテ謂ニ其四月提案ニ於テ南京國民政府ノ存在ヲ前提トシ帝國ト中華民國トノ全面和平ヲ(成)慫慂セルニ拘

ラス今次提案(「日米政府ノ採ルヘキ措置」第四項)ニ於テ重慶政權ヲ除ク如何ナル政權ヲモ(軍事的政治的且經濟的ニ)支持セサルコトヲ要求シ南京政府ヲ全然否認シ去ラントスル態度ニ出テタルハ當初ノ提言ヲ根底ヨリ覆スモノト云フヘク尚十一月二十日帝國政府提案ニ關聯シ帝國政府ハ米國大統領カ日支間ニ紹介者トナリテ

REEL No. A-0293
0098
アジア歴史資料センター

和平ヲ周旋スルニ異議ナク唯右紹介ニ依リ日支直接交渉開始ノ運ヒトナリタル上ハ米國ニ於テ日支和平ヲ妨碍セサル旨ヲ約サンコトヲ求メタリ然ルニ米國政府ハ右ノ公正ナル要求ヲ拒否シテ援蔣行爲ヲ繼續スル意思ヲ表明シタルカ右ハ後ニ至リ米國大統領カ蘭言ヲ願シテ紹介ヲ試ミルノ時機猶熟セスト

ナ之ヲ撤回セルコトト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常狀態ノ復歸シ東亞ノ天地ニ平和ノ回復スルコトヲ希望セサルコトヲ實證スルモノナリ

要之「日」米兩國ノ採ルヘキ措置」十項中ニハ通商問題（第六、七、八各項）下乃至支那法權撤廢（第五項）等必シモ本質的ニ不可ナ

REEL No. A-0293
0099
アジア歴史資料センター

ウヤス帝國政府ノ受諾シ得ル條項ナキニアラサルモ全体的ニ觀テ帝國政府トシテハ交渉ノ基礎トシテ到底之ヲ受諾シ難シ

五、惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ英國其他ト苟合策動シテ東亜ニ於テハ帝國ヽ西ニ於テハ獨伊兩國ノ新秩序建設ニ依ル世界平和確立ノ努力ヲ妨碍セントスルニ在リ特ニ東亜ニ於テハ日支ヲ相鬪ハシ

メ以テ英米ノ利益ヲ擁護セントスルモノニシテ右ハ十一月二十六日ノ提案ニ依リ益々明瞭トナレリ

尚帝國政府ハ交渉ノ急速成立ヲ希望スル見地ヨリ日米交渉妥結ノ際ハ英國其他ノ關係國トノ間ニモ同時調印方ヲ期待セルカ合衆國政府ハ英蘭蘭支等ト屢々協議セル結果前記提案ヲ爲セルモ

(重慶)

REEL No. A-0293
0100
アジア歴史資料センター

ノニテ右諸國ハ何レモ米國ト共ニ帝國ノ立場ヲ無視シ延テハ帝國ノ存立ヲ脅威セントスルモノト斷セサルヲ得ス

斯クテ日米國交ヲ調整シ合衆國政府ト相携ヘテ太平洋ノ平和ヲ維持確立セントスル帝國政府ノ希望ト方途トハ遂ニ全ク失ハレ帝國政府ハ遺憾乍ラ合衆國政府カ現在ノ態度ヲ持續スル限リ今

後交渉ヲ繼續スルモ遂ニ妥結ニ達スルヲ得スト認ムル外ナキニヨリ茲ニ交渉ヲ打切ルノ已ムヲ無キニ至レルコトヲ茲ニ謹テ通告ス

(キ)一切ノ事態ニ付テハ合衆國政府ニ於テ其ノ責ニ任スヘキモノナル旨合衆國政府ニ厳重ニ通告スルモノナリ

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

第一、合衆國政府及日本國政府ハ英帝國、支那、日本國、和蘭、蘇聯邦、泰國及合衆國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ件

日、米、英、蘭、支、蘇、泰七國間ニ不侵略條約ヲ締結スル考案ハ不侵略ノ原則ニ基礎ヲ置ク集團的平和機構ヲ東亞ノ地域ニ設定セントスルモノナルガ、東亞ノ現狀ハ斯ル集團的平和機構ガ有效ニ成立シ且運用セラルルガ爲必要トセラルル最小限度ノ事態ノ明確性ト安定性トヲ今尚缺除セルコトヲ認メザルヲ得ス關係諸國ノ政府ハ先ツ平和機構ノ設定ヲ可能ナラシムルガ爲事態ニ明確ト安定トヲ招來スルコトニ努力シ右努力ニ成功シタル上始メテ此ノ種ノ集團的平和機構ノ考案及實行ヲ問題トスベキナリ

以上ハ東亞ニ於ケル集團的平和機構ノ設定ガ今直ニ現實ノ問題トスルニ適セザルコトヲ問題トシタルガ、之トハ別ニ、東亞ニ於ケル平和機構トシテ不侵略ノ原則ヲ以テ充分トスベキヤ否ヤノ問題アリ帝國政府ノ眞解ニ依レバ不侵略ノ約束アル所ニ多タ侵略ノ可能性ガ存在シ且又現實ニ侵略行爲ノ行ハレタルコトハ最近數年間ノ國際案件ニ依リ實證セラレタルトコロニシテ全般的又ハ局地的ノ平和機構トシテ斯ノ如ク芳シカラサル成績ヲ擧ゲタル不侵略ノ原則ヲ其ノ儘東亞ニ移植セントスルハ東亞恒久ノ平和ヲ樹立スル所以ニ非ズ東亞ニ於テハ不侵略ノ原則ノ如キ消極的原則ヲ以テ足レリトセズ現實ノ事態ニ即シタル東亞民族ノ提携協力ヲ具体化スル積極的原則ヲ同時ニ考慮スルヲ要ス蓋

REEL No. A-0293
0102
アジア歴史資料センター

帝國政府ノ見解ニ依レハ後者卽チ現實ノ事態ニ卽スル積極的原則ノ確立アリテ始メテ前者卽チ不侵略ノ原則ハ有效ニ成立シ運用セラルベキモノト思考ス

滿洲國ノ存在カ東亞ノ現實トシテ同地域ニ於ケル平和機構ノ設定ニ當リ之ヲ忘却スベカラザルコトヲ特ニ指摘セザルベカラズ

第二、佛印ノ領土保全及經濟上ノ平等待遇問題

帝國政府ハ本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル議定書竝ニ七月二十九日ノ佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル議定書ニ依リ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ヲ嚴肅ニ誓約シ且右領土主權ヲ確保スル爲日佛兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約シタリ

帝國政府ハ本年五月六日ノ佛領印度支那ニ關スル居住航海條約竝ニ日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ樣式ニ關スル協定ヲ佛國政府ト締結シタル處兩條約ニヨル利益ハ最惠國條約ニ依リ第三國民ノ均シク均霑シ得ベキトコロノモノニシテ之ニ依リ帝國ハ同地域ニ於テ特惠的待遇ヲ獲得シタルモノニ非ズ

佛領印度支那ニ關シ、日、米、英、蘭、支、泰七國間ニ同地域ノ領土主權ノ尊重竝ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ七國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルニ等シク同地域ニ對スル佛國ノ主權ヲ阻害スルモノナルノミナラズ東亞ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原因ノ一タル領土保全及經濟均等待遇ノ原則ノ上ニ立ツ九國條約体制カ佛領印度支那ニ擴

REEL No. A-0293
0103
アジア歴史資料センター

張セントスルモノト謂フベク東亞ノ現實ニ對スル九國條約ノ非妥當性ヲ確信スル帝國政府トシテ斷ジテ容認シ得ザル所ナリ

第三、日本軍隊ノ佛印ヨリノ全的撤退問題

日本軍ノ佛印駐在ハ日佛共同防衛ニ關スル議定書ニ基ク平和進駐ニシテ一方的武力進出ニアラス米國側ノ所謂「武力不擴大」主義ヨリスルモ何等非難スヘキ點ナキノミナラス米國カ「アイスランド」及蘭領「ギアナ」ニ進駐シ乍ラ日本ニ對シテノミ佛印ヨリノ撤兵ヲ主張スルハ宛然宗主國ノ附庸國ニ對スル態度ニシテ竝立スル强大國間ニ採ラルヘキ態度ニアラス帝國トシテ絶對ニ容認出來サル所ナルノミナラス米國側ヨリ斯ル提言ヲ爲スハ帝國カ東亞再建ノ爲四年半ニ亘リ多大ノ犧牲ヲ佛ヒタル炳乎タル事實ヲ全然無視セントスル態度ノ一表現ニシテ米國ニ於テ先ツ第一ニ支那事變ヲ肯定セサル限リ妥協ハ不可能ナリ

REEL No. A-0293
0104
アジア歴史資料センター

第四、重慶政府ヲ唯一ノ正統政府ト認ムヘシトノ提案

本提案ハ佛印ヨリノ全面撤兵ト共ニ米國ノ日米交渉ニ對スル誠意ヲ疑ハシムル提案ナリ

帝國カ昨年十一月南京ニ於ケル國民政府ヲ支那ニ於ケル唯一ノ正統政府トシテ承認シ且日滿華共同宣言ヲ發シテ東亞再建ノ意思ヲ明ニシタルコト及本年七月帝國ノ斡旋ニヨリテ獨、伊、西班牙等ノ諸國カ相次イテ南京ニアル國民政府ヲ承認シタルコトハ米國側ニ於テ熟知ノコトニシテ然モ日米交渉中支那問題ニ關シテハ南京政府ト重慶政權トノ合流ニヨル統一政府ノ構成ヲ一項目トシテ提示シアリ米國側ニ於テモ支那事變ニ關シ橋渡シヲ爲サンコトヲ提議シ乍ラ今ニ及ンテ帝國ニ對シ重慶ヲ支那ニ於

ケル唯一ノ政府トシテ承認スルコトヲ求ムルカ如キハ帝國ヲ愚弄スルノ甚シキモノト云フヘシ

第五、租界ノ返還ニ關スル提案

租界ノ返還ニ關シテハ昨年締結セル日華基本條約ニ於テモ「日華新關係ノ發展ニ照應シ日本ハ治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スヘキ」コトヲ規定シ居リ主義上異議ナキ所ナルモ帝國ノ如ク支那ト地域的ニ接近シ重大利害關係アル國ハ米國ノ如ク地域的ニ遠隔ノ距離ニアリ且利害關係稀薄ナル國ト同一ニ論セラルヘキモノニアラス卽本問題ハ日華基本條約ニモ規定シアル如ク支那ト他國家間關係ノ發展ニ照應シテ行ハルヘキモノニシテ支那ヲ除外セル第三國間ニ於テ斯ルコトヲ規定スル筋合ニアラ

REEL No. A-0293
0105
アジア歴史資料センター

ス

況ヤ日華基本條約ニ於テ帝國カ治外法權ノ撤廢ヲ明記シ居ルニモ拘ラス全然之ヲ無視シ更ニ斯ル提案ヲ爲スハ帝國ニ對スル不信ト稱シ得ヘシ

第六、兩國間通商ニ關シ互惠的最惠國待遇及通商障壁ノ低減ヲ計ルヘシトノ提案

ハ可ナリ

第七、相互ニ資金凍結ヲ解除スルノ案

ハ可ナリ、但シ「自國ノ安全及自衛ノ爲必要ナリ」等ノ理由ニヨリ石油ノ對日供給量ヲ成限スルカ如キコトナキヲ要スルコト勿論ナリ

第八、圓弗爲替安定ニ關スル提案

ハ可ナリ

現在ハ圓ハ弗ニ對シ二十三弗十六分ノ七ノ點ニ固定セシメ居リ、而シテ右操作ハ總テ日本側ノミノ手ニ依リ又日本ノ資金ノミニテ行ヒ居レリ、即日本ノ資金ガ續カサルコトトナラハ圓ハ下落ス然ルニ米側申出ハ右操作ヲ米ニ於テモ擔當シ米ノ資金ヲ以テ圓爲替維持ヲ爲サントスルモノニテ圓、弗相場ノ固定カ日本ニ利益ナル限リソノ操作ト資金ト責任ヲ米カ分擔スルコトハ日本ノ利益ナリ

第九、兩國政府ハ其一方カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的タル太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾スル

REEL No. A-0293
0106
アジア歴史資料センター

カ如ク解釋セラレサル旨同意スルノ件

帝國ノ三國條約上ノ義務ノ解釋ヲ拘束セン.コトヲ目的トシ從テ米國カ歐洲戰爭參入ノ場合帝國ノ獨伊加擔ヲ牽制セントスルモノニシテ之カ受諾ハ同條約ヲ一片ノ死文ト化スヘク我方トシテ斷シテ容認シ得サル所ナリ

第七、他國政府ヲシテ本協定ノ諸原則ヲ遵守セシムル件

前記諸點ニ關スル見解如何ニ依リテ決定セラルヘキモノトス

第一、合衆國政府及日本國政府ハ英帝國、支那、日本國、和蘭、蘇聯邦、泰國及合衆國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ件

日、米、英、蘭、支、蘇、泰七國間ニ不侵略條約ヲ締結スル考案ハ不侵略ノ原則ニ基礎ヲ置ク集團的平和機構ヲ東亞ノ地域ニ設定セントスルモノナルガ、東亞ノ現狀ハ斯ル集團的平和機構ガ有效ニ成立シ且運用セラルルガ爲必要トセラルル最小限度ノ事態ノ明確性ト安定性トヲ今尙缺除セルコトヲ認メザルヲ得ス關係諸國ノ政府ハ先ツ平和機構ノ設定ヲ可能ナラシムルガ爲事態ニ明確ト安定トヲ招來スルコトニ努力シ右努力ニ成功シタル上始メテ此ノ種ノ集團的平和機構ノ考案及實行ヲ問題トスベキナリ

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

以上ハ東亞ニ於ケル集團的平和機構ノ設定ガ今直ニ現實ノ問題トスルニ適セザルコトヲ問題トシタルガ、之トハ別ニ、東亞ニ於ケル平和機構トシテ不侵略ノ原則ヲ以テ充分トスベキヤ否ヤノ問題アリ帝國政府ノ眞見解ニ依レバ不侵略ノ約束アル所ニ多ク侵略ノ可能性ガ存在シ且又現實ニ侵略行爲ノ行ハレタルコトハ最近數年間ノ國際案件ニ依リ實證セラレタルトコロニシテ全般的又ハ局地的ノ平和機構トシテ斯ノ如タ芳シカラサル成績ヲ擧ゲタル不侵略ノ原則ヲ其ノ儘東亞ニ移植セントスルハ東亞恒久ノ平和ヲ樹立スル所以ニ非ズ東亞ニ於テハ不侵略ノ原則ノ如キ消極的原則ヲ以テ足レリトセズ現實ノ事態ニ即シタル東亞民族ノ提携協力ヲ具体化スル積極的原則ヲ同時ニ考慮スルヲ要ス否

帝國政府ノ見解ニ依レハ後者即チ現實ノ事態ニ即スル積極的原則ノ確立アリテ始メテ前者即チ不侵略ノ原則ハ有效ニ成立シ得

用セラルベキモノト思考ス

滿洲國ノ存在ガ東亞ノ現實トシテ同地域ニ於ケル平和機構ノ設定ニ當リ之ヲ忘却スベカラザルコトヲ特ニ指摘セザルベカラズ

第三、佛印ノ領土保全及經濟上ノ平等待遇問題

帝國政府ハ本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル議定書並ニ七月二十九日ノ佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル議定書ニ依リ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ヲ嚴肅ニ誓約シ且右領土主權ヲ確保スル爲日佛兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約シタリ

REEL No. A-0293
0108
アジア歴史資料センター

帝國政府ハ本年五月六日ノ佛領印度支那ニ關スル居住航海條約
竝ニ日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ樣式ニ關ス
ル協定ヲ佛國政府ト締結シタル處兩條約ニヨル利益ハ最惠國條
約ニ依リ第三國民ノ均シク享受シ得ベキトコロノモノニシテ之
ニ依リ帝國ハ同地域ニ於テ特惠的待遇ヲ獲得シタルモノニ非ズ
佛領印度支那ニ關シ、日、米、英、蘭、支、泰七國間ニ同地域
ノ領土主權ノ尊重竝ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスル
ハ同地域ヲ七國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルニ等シ
ク同地域ニ對スル佛國ノ主權ヲ阻害スルモノナルノミナラズ東
亞ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原因ノ一タル領土保全及經
濟均等待遇ノ原則ノ上ニ立ツ九國條約体制カ佛領印度支那ニ對

外務省

張セントスルモノト謂フベク東亞ノ現實ニ對スル九國條約ノ尊
厳性ヲ確信スル帝國政府トシテ容認シ得ザル所ナリ

外務省

REEL No. A-0293
0109
アジア歴史資料センター

第三、日本軍隊ノ佛印ヨリノ全的撤退問題

日本軍ノ佛印駐在ハ日佛共同防衛ニ關スル議定書ニ基ク平和進駐ニシテ一方的武力進出ニアラス米國側ノ所謂「武力不擴大」主義ヨリスルモ何等非難スヘキ點ナキノミナラス米國カ「アイスランド」及蘭領「ギアナ」ニ進駐シ乍ラ日本ニ對シテノミ佛印ヨリノ撤兵ヲ主張スルハ宛然宗主國ノ附庸國ニ對スル態度ニシテ竝立スル強大國間ニ採ラルヘキ態度ニアラス帝國トシテ絶對ニ容認出來サル所ナルノミナラス米國側ヨリ斯ル提言ヲ爲スハ帝國カ東亞再建ノ爲四年半ニ亘リ多大ノ犧牲ヲ佛ヒタル炳乎タル事實ヲ全然無視セントスル態度ノ一表現ニシテ米國ニ於テ先ツ第一ニ支那事變ヲ肯定セサル限リ妥協ハ不可能ナリ

第四、重慶政府ヲ唯一ノ正統政府ト認ムヘシトノ提案

本提案ハ佛印ヨリノ全面撤兵ト共ニ米國ノ日米交渉ニ對スル誠意ヲ疑ハシムル提案ナリ

帝國カ昨年十一月南京ニ於ケル國民政府ヲ支那ニ於ケル唯一ノ正統政府トシテ承認シ且日滿華共同宣言ヲ發シテ東亞再建ノ意思ヲ明ニシタルコト及本年七月帝國ノ斡旋ニヨリテ獨、伊、西班牙等ノ諸國カ相次イテ南京ニアル國民政府ヲ承認シタルコトハ米國側ニ於テ熟知ノコトニシテ然モ日米交渉中支那問題ニ關シテハ南京政府ト重慶政權トノ合流ニヨル統一政府ノ構成ヲ一項目トシテ提示シアリ米國側ニ於テモ支那事變ニ關シ橋渡シヲ爲サンコトヲ提議シ乍ラ今ニ及ンテ帝國ニ對シ重慶ヲ支那ニ於

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

ケル唯一ノ政府トシテ承認スルコトヲ求ムルカ如キハ帝國ヲ慫
弄スルノ甚シキモノト云フヘシ

第五、租界ノ返還ニ關スル提案

租界ノ返還ニ關シテハ昨年締結セル日華基本條約ニ於テモ「日
華新關係ノ發展ニ照應シ日本ハ治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ
還付スヘキ」コトヲ規定シ居リ主義上異議ナキ所ナルモ帝國ノ
如ク支那ト地域的ニ接近シ重大利害關係アル國ハ米國ノ如ク地
域的ニ遠隔ノ距離ニアリ且利害關係稀薄ナル國ト同一ニ論セラ
ルヘキモノニアラス卽本問題ハ日華基本條約ニモ規定シアル如
ク支那ト他國家間關係ノ發展ニ照應シテ行ハルヘキモノニシテ
支那ヲ除外セル第三國間ニ於テ斯ルコトヲ規定スル筋合ニアラ

ス

況ヤ日華基本條約ニ於テ帝國カ治外法權ノ撤廢ヲ明記シ居ルニ
モ拘ラス全然之ヲ無視シ更ニ斯ル提案ヲ爲スハ帝國ニ對スル不
信ト稱シ得ヘシ

第六、兩國間通商ニ關シ互惠的最惠國待遇及通商障壁ノ低減ヲ計ル
ヘシトノ提案

ハ可ナリ

第七、相互ニ資金凍結ヲ解除スルノ案

ハ可ナリ、但シ「自國ノ安全及自衛ノ爲必要ナリ」等ノ理由ニ
ヨリ石油ノ對日供給量ヲ成限スルカ如キコトナキヲ要スルコト
勿論ナリ

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

第八、國弗爲替安定ニ關スル提案

ハ可ナリ

現在ハ國ハ弗ニ對シ二十三弗十六分ノ七ノ點ニ固定セシメ居リ、而シテ右操作ハ總テ日本側ノミノ手ニ依リ又日本ノ資金ノミニテ行ヒ居レリ、即日本ノ資金ガ續カサルコトトナラハ國ハ下落ス然ルニ米側申出ハ右操作ヲ米ニ於テモ擔當シ米ノ資金ヲ以テ國爲替維持ヲ爲サントスルモノニテ國、弗相場ノ固定カ日本ニ利益ナル限リソノ操作ト資金ト責任ヲ米カ分擔スルコトハ日本ノ利益ナリ

第九、兩國政府ハ其一方カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的タル太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾スル

カ如ク解釋セラレサル旨同意スルノ件

帝國ノ三國條約上ノ義務ノ解釋ヲ拘束センコトヲ目的トシ從テ米國カ歐洲戰爭參入ノ場合帝國ノ獨伊加盟ヲ牽制セントスルモノニシテ之カ受諾ハ同條約ヲ一片ノ死文ト化スヘク我方トシテ斷シテ容認シ得サル所ナリ

第七、他國政府ヲシテ本協定ノ諸原則ヲ遵守セシムル件

前記諸點ニ關スル見解如何ニ依リテ決定セラルヘキモノトス

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

第一、合衆國政府及日本國政府ハ英帝國、支那、日本國、和蘭、蘇聯邦、泰國及合衆國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ件

日、米、英、蘭、支、蘇、泰七國間ニ不侵略條約ヲ締結スル考案ハ不侵略ノ原則ニ基礎ヲ置ク集團的平和機構ヲ東亞ノ地域ニ設定セントスルモノナルガ、東亞ノ現狀ハ斯ル集團的平和機構ガ有效ニ成立シ且運用セラルルガ爲必要トセラルル最小限度ノ事態ノ明確性ト安定性トヲ今尚缺除セルコトヲ認メザルヲ得ス關係諸國ノ政府ハ先ツ平和機構ノ設定ヲ可能ナラシムルガ爲事態ニ明確ト安定トヲ招來スルコトニ努力シ右努力ニ成功シタル上始メテ此ノ種ノ集團的平和機構ノ考案及實行ヲ問題トスベキナリ

以上ハ東亞ニ於ケル集團的平和機構ノ設定ガ今直ニ現實ノ問題トスルニ適セザルコトヲ問題トシタルガ、之トハ別ニ、東亞ニ於ケル平和機構トシテ不侵略ノ原則ヲ以テ充分トスベキヤ否ヤノ問題アリ帝國政府ノ見解ニ依レバ不侵略ノ約束アル所ニ多ク侵略ノ可能性ガ存在シ且又現實ニ侵略行爲ノ行ハレタルコトハ最近數年間ノ國際案件ニ依リ實證セラレタルトコロニシテ全般的又ハ局地的ノ平和機構トシテ斯ノ如キ芳シカラサル成績ヲ擧ゲタル不侵略ノ原則ヲ其ノ儘東亞ニ移植セントスルハ東亞恒久ノ平和ヲ樹立スル所以ニ非ズ東亞ニ於テハ不侵略ノ原則ノ如キ消極的原則ヲ以テ足レリトセズ現實ノ事態ニ即シタル東亞民族ノ提携協力ヲ具体化スル積極的原則ヲ同時ニ考慮スルヲ要ス否

REEL No. A-0293
0113
アジア歴史資料センター

帝國政府ノ見解ニ依レハ後者卽チ現實ノ事態ニ卽スル積極的原則ノ確立アリテ始メテ前者卽チ不侵略ノ原則ハ有效ニ成立シ得用セラルベキモノト思考ス

滿洲國ノ存在カ眼前ノ現實トシテ同地域ニ於ケル平和機構ノ設定ニ當リ之ヲ忘却スベカラザルコトヲ特ニ指摘セザルベカラズ

第二 佛印ノ領土保全及經濟上ノ平等待遇問題

帝國政府ハ本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル議定書並ニ七月二十九日ノ佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル議定書ニ依リ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ヲ嚴肅ニ誓約シ且右領土主權ヲ確保スル爲日佛兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約シタリ

帝國政府ハ本年五月六日ノ佛領印度支那ニ關スル居住航海條約並ニ日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ樣式ニ關スル協定ヲ佛國政府ト締結シタル處兩條約ニヨル利益ハ最惠國條約ニ依リ第三國民ノ均シク享受シ得ベキトコロノモノニシテ之ニ依リ帝國ハ同地域ニ於テ特惠的待遇ヲ獲得シタルモノニ非ズ佛領印度支那ニ關シ、日、米、英、蘭、支、泰七國間ニ同地域ノ領土主權ノ尊重並ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ七國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルニ等シク同地域ニ對スル佛國ノ主權ヲ阻害スルモノナルノミナラズ東亞ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原因ノ一タル領土保全及經濟均等待遇ノ原則ノ上ニ立ツ九國條約体制カ佛領印度支那ニ擴

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

張セントスルモノト謂フベク東亞ノ現實ニ對スル九國條約ノ精
神性ヲ確信スル帝國政府トシテ容認シ得ザル所ナリ

第三、日本軍隊ノ佛印ヨリノ全的撤退問題

日本軍ノ佛印駐在ハ日佛共同防衛ニ關スル議定書ニ基ク平和進駐ニシテ一方的武力進出ニアラス米國側ノ所謂「武力不擴大」主義ヨリスルモ何等非難スヘキ點ナキノミナラス米國カ「アイスランド」及蘭領「ギアナ」ニ進駐シ乍ラ日本ニ對シテノミ佛印ヨリノ撤兵ヲ主張スルハ宛然宗主國ノ附庸國ニ對スル態度ニシテ竝立スル强大國間ニ採ラルヘキ態度ニアラス帝國トシテ絶對ニ容認出來サル所ナルノミナラス米國側ヨリ斯ル提言ヲ爲スハ帝國カ東亞再建ノ爲四年半ニ亘リ多大ノ犧牲ヲ拂ヒタル炳乎タル事實ヲ全然無視セントスル態度ノ一表現ニシテ米國ニ於テ先ツ第一ニ支那事變ヲ肯定セサル限リ妥協ハ不可能ナリ

REEL No. A-0293
0115
アジア歴史資料センター

第四 重慶政府ヲ唯一ノ正統政府ト認ムヘシトノ提案

本提案ハ佛印ヨリノ全面撤兵ト共ニ米國ノ日米交渉ニ對スル誠意ヲ疑ハシムル提案ナリ

帝國カ昨年十一月南京ニ於ケル國民政府ヲ支那ニ於ケル唯一ノ正統政府トシテ承認シ且日滿華共同宣言ヲ發シテ東亞再建ノ意思ヲ明ニシタルコト及本年七月帝國ノ斡旋ニヨリテ獨、伊、西班牙等ノ諸國カ相次イテ南京ニアル國民政府ヲ承認シタルコトハ米國側ニ於テ熟知ノコトニシテ然モ日米交渉中支那問題ニ關シテハ南京政府ト重慶政權トノ合流ニヨル統一政府ノ構成ヲ一項目トシテ提示シアリ米國側ニ於テモ支那事變ニ關シ橋渡シヲ爲サンコトヲ提議シ乍ラ今ニ及ンテ帝國ニ對シ重慶ヲ支那ニ於

ケル唯一ノ政府トシテ承認スルコトヲ求ムルカ如キハ帝國ヲ侮弄スルノ甚シキモノト云フヘシ

第五 租界ノ返還ニ關スル提案

租界ノ返還ニ關シテハ昨年締結セル日華基本條約ニ於テモ「日華新關係ノ發展ニ照應シ日本ハ治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スヘキ」コトヲ規定シ居リ主義上異議ナキ所ナルモ帝國ノ如ク支那ト地域的ニ接近シ重大利害關係アル國ハ米國ノ如ク地域的ニ遠隔ノ距離ニアリ且利害關係稀薄ナル國ト同一ニ論セラルヘキモノニアラス卽本問題ハ日華基本條約ニモ規定シアル如ク支那ト他國家間關係ノ發展ニ照應シテ行ハルヘキモノニシテ支那ヲ除外セル第三國間ニ於テ斯ルコトヲ規定スル筋合ニアラ

REEL No. A-0293
0116
アジア歴史資料センター

ス

況ヤ日華基本條約ニ於テ帝國カ治外法權ノ撤廢ヲ明記シ居ルニモ拘ラス全然之ヲ無視シ更ニ斯ル提案ヲ爲スハ帝國ニ對スル不信ト稱シ得ヘシ

第六、兩國間通商ニ關シ互惠的最惠國待遇及通商障壁ノ低減ヲ計ルヘシトノ提案

ハ可ナリ

第七、相互ニ資金凍結ヲ解除スルノ案

ハ可ナリ、但シ「自國ノ安全及自衛ノ爲必要ナリ」等ノ理由ニヨリ石油ノ對日供給量ヲ成限スルカ如キコトナキヲ要スルコト勿論ナリ

第八、圓弗爲替安定ニ關スル提案

ハ可ナリ

現在ハ圓ハ弗ニ對シ二十三弗十六分ノ七ノ點ニ固定セシメ居リ、而シテ右操作ハ總テ日本側ノミノ手ニ依リ又日本ノ資金ノミニテ行ヒ居レリ、即日本ノ資金カ發カサルコトトナラハ圓ハ下落ス然ルニ米側申出ハ右操作ヲ米ニ於テモ擔當シ米ノ資金ヲ以テ圓爲替維持ヲ爲サントスルモノニテ圓、弗相場ノ固定カ日本ニ利益ナル限リソノ操作ト資金ト責任ヲ米カ分擔スルコトハ日本ノ利益ナリ

第九、兩國政府ハ其一方カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的タル太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾スル

REEL No. A-0293
アジア歴史資料センター

カ如ク解釋セラレサル旨同意スルノ件

帝國ノ三國條約上ノ義務ノ解釋ヲ拘束センコトヲ目的トシ獨ナ米國カ歐洲戰爭參入ノ場合帝國ノ獨伊加盟ヲ牽制セントスルモノニシテ之カ受諾ハ同條約ヲ一片ノ死文ト化スヘク我方トシテ嘶シテ容認シ得サル所ナリ

第七、他國政府ヲシテ本協定ノ諸原則ヲ遵守セシムル件

前記諸點ニ關スル見解如何ニ依リテ決定セラルヘキモノトス

第一、合衆國政府及日本國政府ハ英帝國、支那、日本國、和蘭、蘇聯邦、泰國及合衆國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ件

日、米、英、蘭、支、蘇、泰七國間ニ不侵略條約ヲ締結スル考案ハ不侵略ノ原則ニ基礎ヲ置ク集團的平和機構ヲ東亞ノ地域ニ設定セントスルモノナルガ、東亞ノ現狀ハ斯ル集團的平和機構ガ有效ニ成立シ且運用セラルルガ爲必要トセラルル最小限度ノ事態ノ明確性ト安定性トヲ今尙缺除セルコトヲ認メザルヲ得ス關係諸國ノ政府ハ先ツ平和機構ノ設定ヲ可能ナラシムルガ爲事態ニ明確ト安定トヲ招來スルコトニ努力シ右努力ニ成功シタル上始メテ此ノ種ノ集團的平和機構ノ考案及實行ヲ問題トスベキナリ

REEL No. A-0293

0118

アジア歴史資料センター

以上ハ東亞ニ於ケル集團的平和機構ノ設定ガ今直ニ現實ノ問題トスルニ適セザルコトヲ問題トシタルガ、之トハ別ニ、東亞ニ於ケル平和機構トシテ不侵略ノ原則ヲ以テ充分トスベキヤ否ヤノ問題アリ帝國政府ノ見解ニ依レバ不侵略ノ約束アル所ニ多ク侵略ノ可能性ガ存在シ且又現實ニ侵略行爲ノ行ハレタルコトハ最近數年間ノ國際案件ニ依リ實證セラレタルトコロニシテ全般的又ハ局地的ノ平和機構トシテ斯ノ如ク芳シカラザル成績ヲ擧ゲタル不侵略ノ原則ヲ其ノ儘東亞ニ移植セントスルハ東亞恒久ノ平和ヲ樹立スル所以ニ非ズ東亞ニ於テハ不侵略ノ原則ノ如キ消極的原則ヲ以テ足レリトセズ現實ノ事態ニ即シタル東亞民族ノ提携協力ヲ具体化スル積極的原則ヲ同時ニ考慮スルヲ要ス否

帝國政府ノ見解ニ依レバ後者即チ現實ノ事態ニ即スル積極的原則ノ確立アリテ始メテ前者即チ不侵略ノ原則ハ有效ニ成立シ得用セラルベキモノト思考ス

亞洲國ノ存在ガ東亞ノ現實トシテ同地域ニ於ケル平和機構ノ設定ニ當リ之ヲ忘却スベカラザルコトヲ特ニ指摘セザルベカラズ

第七 佛印ノ領土保全及經濟上ノ平等待遇問題

帝國政府ハ本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル議定書並ニ七月二十九日ノ佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル議定書ニ依リ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ヲ嚴肅ニ誓約シ且右領土主權ヲ確保スル爲日佛兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約シタリ

REEL No. A-0293
0113
アジア歴史資料センター

帝國政府ハ本年五月六日ノ佛領印度支那ニ關スル居住航海條約
並ニ日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ樣式ニ關ス
ル協定ヲ佛國政府ト締結シタル處兩條約ニヨル利益ハ故惠國條
約ニ依リ第三國民ノ均シク均霑シ得ベキトコロノモノニシテ之
ニ依リ帝國ハ同地域ニ於テ特惠的待遇ヲ獲得シタルモノニ非ス
佛領印度支那ニ關シ、日、米、英、蘭、支、泰七國間ニ同地域
ノ領土主權ノ尊重並ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスル
ハ同地域ヲ七國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルニ等シ
ク同地域ニ對スル佛國ノ主權ヲ阻害スルモノナルノミナラズ東
亞ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原因ノ一タル領土保全及經
濟均等待遇ノ原則ノ上ニ立ツ九國條約体制カ佛領印度支那ニ擴

外務省

張セントスルモノト謂フベク東亞ノ現實ニ對スル九國條約ノ尊
厳性ヲ確信スル帝國政府トシテ安ジテ容認シ得ザル所ナリ

外務省

REEL No. A-0293
0120
アジア歴史資料センター

第三、日本軍隊ノ佛印ヨリノ全的撤退問題

日本軍ノ佛印駐在ハ日佛共同防衛ニ關スル議定書ニ基ク平和進駐ニシテ一方的武力進出ニアラス米國側ノ所謂「武力不擴大」主義ヨリスルモ何等非難スヘキ點ナキノミナラス米國カ「アイスランド」及蘭領「ギアナ」ニ進駐シ乍ラ日本ニ對シテノミ佛印ヨリノ撤兵ヲ主張スルハ宛然宗主國ノ附庸國ニ對スル態度ニシテ竝立スル強大國間ニ採ラルヘキ態度ニアラス帝國トシテ絶對ニ容認出來サル所ナルノミナラス米國側ヨリ斯ル提言ヲ爲スハ帝國カ東亞再建ノ爲四年半ニ亘リ多大ノ犧牲ヲ佛ヒタル所乎タル事實ヲ全然無視セントスル態度ノ一表現ニシテ米國ニ於テ先ツ第一ニ支那事變ヲ肯定セサル限リ妥協ハ不可能ナリ

第四、重慶政府ヲ唯一ノ正統政府ト認ムヘシトノ提案

本提案ハ佛印ヨリノ全面撤兵ト共ニ米國ノ日米交渉ニ對スル藏意ヲ疑ハシムル提案ナリ

帝國カ昨年十一月南京ニ於ケル國民政府ヲ支那ニ於ケル唯一ノ正統政府トシテ承認シ且日滿華共同宣言ヲ發シテ東亞再建ノ意思ヲ明ニシタルコト及本年七月帝國ノ斡旋ニヨリテ獨、伊、西班牙等ノ諸國カ相次イテ南京ニアル國民政府ヲ承認シタルコトハ米國側ニ於テ熟知ノコトニシテ然モ日米交渉中支那問題ニ關シテハ南京政府ト重慶政權トノ合流ニヨル統一政府ノ構成ヲ一項目トシテ提示シアリ米國側ニ於テモ支那事變ニ關シ橋渡シヲ爲サンコトヲ提議シ乍ラ今ニ及ンテ帝國ニ對シ重慶ヲ支那ニ於

REEL No. A-0293
0121
アジア歴史資料センター

ケル唯一ノ政府トシテ承認スルコトヲ求ムルカ如キハ帝國ヲ撤弄スルノ甚シキモノト云フヘシ

第五 租界ノ返還ニ關スル提案

租界ノ返還ニ關シテハ昨年締結セル日華基本條約ニ於テモ「日華新關係ノ發展ニ照應シ日本ハ治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スヘキ」コトヲ規定シ居リ主義上異議ナキ所ナルモ帝國ノ如ク支那ト地域的ニ接近シ重大利害關係アル國ハ米國ノ如ク地域的ニ遠隔ノ距離ニアリ且利害關係稀薄ナル國ト同一ニ論セラルヘキモノニアラス卽本問題ハ日華基本條約ニモ規定シアル如ク支那ト他國家間關係ノ發展ニ照應シテ行ハルヘキモノニシテ支那ヲ除外セル第三國間ニ於テ斯ルコトヲ規定スル筋合ニアラ

ス

況ヤ日華基本條約ニ於テ帝國カ治外法權ノ撤廢ヲ明記シ居ルニモ拘ラス全然之ヲ無視シ更ニ斯ル提案ヲ爲スハ帝國ニ對スル不信ト稱シ得ヘシ

第六 兩國間通商ニ關シ互惠的最惠國待遇及通商障壁ノ低減ヲ計ルヘシトノ提案

ハ可ナリ

第七 相互ニ資金凍結ヲ解除スルノ案

ハ可ナリ、但シ「自國ノ安全及自衛ノ爲必要ナリ」等ノ理由ニヨリ石油ノ對日供給量ヲ減限スルカ如キコトナキヲ要スルコト勿論ナリ

REEL No. A-0293
0122
アジア歴史資料センター

第八、國弗爲替安定ニ關スル提案

ハ可ナリ

現在ハ國ハ弗ニ對シ二十三弗十六分ノ七ノ點ニ固定セシメ居リ、而シテ右操作ハ總テ日本側ノミノ手ニ依リ又日本ノ資金ノミニテ行ヒ居レリ、即日本ノ資金ガ續カサルコトトナラハ國ハ下落ス然ルニ米側申出ハ右操作ヲ米ニ於テモ擔當シ米ノ資金ヲ以テ國爲替維持ヲ爲サントスルモノニテ國、弗相場ノ固定カ日本ニ利益ナル限リソノ操作ト資金ト責任ヲ米カ分擔スルコトハ日本ノ利益ナリ

第九、兩國政府ハ其一方カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的タル太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾スル

カ如ク解釋セラレサル旨同意スルノ件

帝國ノ三國條約上ノ義務ノ解釋ヲ拘束センコトヲ目的トシ從テ米國カ歐洲戰爭參入ノ場合帝國ノ獨伊加擔ヲ牽制セントスルモノニシテ之カ受諾ハ同條約ヲ一片ノ死文ト化スヘク我方トシテ躊躇シテ容認シ得サル所ナリ

第七、他國政府ヲシテ本協定ノ諸原則ヲ遵守セシムル件

前記諸點ニ關スル見解如何ニ依リテ決定セラルヘキモノトス

REEL No. A-0293
0123
アジア歴史資料センター

第一 合衆国政府及日本政府ハ最高国支那、日本国、和蘭、蘇聯邦、葡萄牙、英、仏蘭西、墨、秦国及合衆国間ニ多国的不可侵条約ノ締結ニ関スル件

日本、英、仏蘭西、墨、秦国間ニ不侵略条約ノ締結スル考案ハ不侵略ノ原則ニ基礎ヲ置ク集団的平和機構ノ東亜ノ地域ニ設定セントスルモノナルガ、原来現状ハ斯ル集団的平和機構ガ有效ニ成立シ且運用セラルルガ為必要トセラルル最小限度ノ事態ノ醸成ト安定性トヲ今尚缺除セルコトヲ認メザルヲ得ズ。関係諸国ノ政府ハ先ヅ平和機構ノ設定ヲ可能ナラシムル為ノ事態ニ明確ト安定トヲ与フル為ニ努力シ右努力ニ成功シタル上始メテ此種ノ集団的平和機構ノ考案ヲ再ビ行フ

問題トスベキナリ

以上ハ東亜ニ於ケル集団的平和機構ノ設定ガ今直ニ現実ノ問題トスル二適セザルコトヲ問題トシタルガ、之トハ別ニ、東亜ニ於ケル平和機構トシテ不侵略ノ原則ヲ以テ充分トスベキヤ否ヤノ問題アリ。帝国政府ノ見解ニ依レバ不侵略ノ約束アルモ之ニ多ク侵略ノ可能性ガ存在シ且又現実ニ侵略行為ノ行ハルルコトハ最近ノ国際政治事件ノ実績ニ依リ実証セラレタルトコロニシテ全般的ノ平和機構トシテサシタル成績ヲ挙ゲタル不

REEL No. A-0293
0124
アジア歴史資料センター

侵略ノ原則ヲ真ノ儘東亜ニ移植セントスルハ東亜ノ
久ノ平和ヲ樹立スル所以ニ非ズ 東亜ニ於テハ不侵略
ノ原則ノ如キ消極的原則(これまでもそうであるが)ニ即
シタル東亜民族ノ提携協力ヲ具体化シ積極的原則
ヲ同時ニ考慮スルヲ要ス 否 帝国政府ノ見解ニ依レ
バ後者即チ現実ノ事態ニ即スル積極的原則ノ確
立アリテ始メテ前者即チ不侵略ノ原則ハ有效ニ成
立シ運用セラルベキモノト思考ス
満州国ノ存在ガ東亜ノ現実トシテ同地域ニ於ケル平

和機構ノ設定ニ寄与シ得ベカラザルコトヲ特ニ指
摘セザルベカラズ

REEL No. A-0293
0125
アジア歴史資料センター

第二 佛印ノ領土保全及 経済上ノ平等待遇問題

帝國政府ハ本年五月九日ノ佛領印度支那ノ共同防衛ニ関スル
仏蘭西ニ七月二十九日ノ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ニ関スル
議定書ニ拠リ佛領印度支那ノ領土主權ノ尊重ヲ厳
粛ニ誓約シ且右領土主權ノ確保スル為ノ佛國政府ハ
佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約シタリ
帝國政府ハ本年五月二日ノ佛領印度支那ニ関スル居住航海
條約並ニ日本國印度支那間ノ相互貿易及其ノ
決濟ノ樣式ニ関スル協定ヲ佛國政府ト締結シタル処右條約
ニヨル利益ハ最惠國條約ニ依リ第三國民ノ均シク享受シ得ベキ

トコロノモノニシテ之ニ依リ帝國ハ同地域ニ於テ特惠的待遇
ヲ獲得シタルモノニ非ズ
佛領印度支那ニ関シ日、米、英、蘭、支、泰七國間ニ同
地域ノ領土主權ノ尊重並ニ貿易及通商ノ均等待遇
ヲ約束セントスル八国地域ヲ七國政府ノ共同保障下ニ置
クレメントスル二等シク同地域ニ対スル諸國ノ主權ヲ阻害スル
モノナルノミナラズ東亜ノ事態ヲ今日ニ到ラシメタル最大原
因ノ一タル領土保全及経済均等待遇ノ原則ノ上ニ立ツル
國際的体制ヲ佛領印度支那ニ播及セントスルモノ

REEL No. A-0293
0126
アジア歴史資料センター

ト謂フベシ 東亜ノ盟邦ニ対スル九国條約ノ非ノ点ハ
之ヲ宣言スル帝国政府トシテ認メテ居ラザルコトナリ

第三、日本軍隊ノ佛印ヨリノ全的撤退問題

日本軍ノ佛印駐屯ハ日佛共同防衛ニ関スル議定書ニ基ク平和進駐ニシテ一方的武力進出ニアラズ 米国側ノ所謂「武力不拡大」主義ヨリスルモ何ト非難スベキ点ナキモノニナラズ 米国カ「アイスランド」及蘭領「ギアナ」ニ進駐シタラ日本側ニ対シテハ佛印ヨリノ撤兵ヲ主張スルハ見解ノ相違ニシテ 独立スル強大国ト宗主国ノ附庸国ニ対スル態度ニシテ 帝国トシテ絶対ニ容認出来サル所

REEL No. A-0293
0127
アジア歴史資料センター

ナルミナラス、米国側ヨリ斯ル提言ヲ為スハ帝国カ
東亜再建ノ為四年半ニ亘リ多大ノ犠牲ヲ拂ヒタル
煩手ナル事ヲ忘レ全然世況ニセントスル態度
ノ一表現ニシテ米国ニ於テ先ツ第一ニ支那ヲ変
●帝国ヲ肯定セサル限リ交渉解決ハ
●米国ノ交渉ニ対スル誠意ニ多協ハ
不可能ナリ

第四 重慶政府ヲ唯一ノ正統政府ト認ムヘシトノ提
案
本提案ハ仏印ヨリノ全面撤兵ト共ニ米国ノ日
米交渉ニ対スル誠意ヲ疑ハシムル提案ナリ
帝国カ昨年十一月南京ニ於テ国民政府ヲ支那ニ
於ケル唯一ノ正統政府トシテ承認シ且日満華共同
宣言ヲ基トシテ東亜再建ノ意図ヲ明ニシタルコト及
本年春
帝国政府ノ斡旋ニヨリテ独、伊、西班牙等ノ諸国カ

REEL No. A-0293
0128
アジア歴史資料センター

相次イテ南京ニアル国民政府ノ承認シタルコトハ米国
側ニ於テ敵対ノコトニシテ然モ日米交渉中支那
問題ニ関シテハ南京政府ト重要政務ノ合流ヨル弱
一政府ノ樹立ヲ一切目トシテ提案シ米国側ニ於テ
モ同支那事変ニ関シ楊度シタ沿サンコトヲ提議
シ下ラ人ヲ及ンテ帝国ニ対シ斯ノ如キ事態ヲ生ノ
政府トシテ承認スルコトヲ求メタル帝国ヲ異常
スルノ為シキモノナリト云フヘシ

第五 租界ノ返還ニ関スル提案

租界ノ返還ハ日義及基本条約ニ於テモ日華共通
(ニ関シテ所ノ条約ニ強セル)
侵害及ニ照シ日本ハ治外法権ノ撤廃ニ及ヒノ
租界ノ返還ヲ要スヘキコトヲ規定シ居リ主義ハ異議ナキ
所ナルモ治外法権ノ撤廃及租界ノ返還ノ如キ問題
モ此ノ如キ国家間関係ノ基礎ニ関シ本来ノ行ハ
ルヘキモノナルニ反シ帝国ノ如ク支那ト地理的ニ接近シ
且重大利害関係ヲ有シ米国ノ如ク地理的ニ

REEL No. A-0293
0129
アジア歴史資料センター

遠隔ノ距離ニアリ且利害関係稀薄ナル国ト
同一ニ論セラルヘキモノニアラス（即）本問題ハ日華基
本条約ニモ規定シアル如ク（支那ト他国家間ノ関係ハ）関係当事者ニ照シテ
行ハル（キモノ）ニシテ支那ヲ除セル第三国ニ於テ
斷トコトヲ規定スル筋合ニアラス
況ヤ日義基本条約ニ於テ帝国カ治外法権ノ撤
廢ヲ記シ居ルコトモ拘ラス今或ル世態ニ乗ジ斯ル
提案ヲ為スハ帝国ニ対スル不信ト称シ得ヘシ

第六、両国ハ通商ニ関シ互惠的最惠国待遇及通商
障壁ノ低減ヲ計ルヘキコトノ提案
〃可ナリ

REEL No. A-0293
0130
アジア歴史資料センター

55

第七、相互ニ資金凍結ヲ解除スルノ件

〃可ナリ但シ「自国ノ必要ニ応ジ必要ナリ」等ノ理由ニヨリ石油ノ対日供給量ヲ制限スルカ如キコトナキヲ要スルコト勿論ナリ

外務省

56

第八、国際ノ為替ノ安定ニ関スル提案

外務省

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

ハ可ナリ
既ニ従来ハ円ハ弗ニ対シ二十三弗十六分ノ七ノ交
ニ固定セシメラレ居リ、而シテ右操作ハ総テ日本側ノミノ手
ニ依リ又日本ノ資金ヲ以テ之ヲ行ヒ居リ、即日本ノ資金
無限ニ円カ従来ノ[illegible]ヨリ下落スルコトハナキス
潤沢ナラス[illegible]右操作ヲ米ニ於テ之ヲ担当シ米ノ
資金ヲ以テ円為替ノ[illegible]為サントスルモノニテ円弗相場
ノ固定カ日本ノ利益ナル限リソノ操作ト資金ニ
責任ヲ米カ分担スルコトハ日本ノ利益ナリ。

57

第九 両国政府ハ其ノ一方カ第三国ト戦争ニ従事シ居ル如何
ナル協定モ本協定ノ根本目的タル太平洋地域全般ノ平和
確立及保持ニ矛盾スルカ如ク解釈セラレサル旨同意スル件
帝国ノ有スル三国條約上ノ義務ノ解釈ヲ拘束セントスルヲ
目的トシ従テ米国カ欧洲戦争参入ノ場合帝国
独伊加担ノ義務ヲ決定セントスルモノニシテ採ルヘキ方トシテ断シテ
容認シ得サル所ナリ

REEL No. A-0293
0132
アジア歴史資料センター

58

加十 他国ト協定ノ存スルモノ

前記諸点ニ関スル見解ハ、其後ニ於テ法定セラル件

9104-62 (8)

帝國政府ノ對米通牒覺書（案）

一六一二三

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的諒解ヲ遂ケ共同ノ努力ニ依リ兩國カ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ世界平和ノ招來ニ貢獻セントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四月以來合衆國政府トノ間ニ兩國間國交ノ調整增進並ニ太平洋地

REEL No. A-0293
0133
アジア歴史資料センター